



上のQRコードを読み取ると、(公益社団法人)佐倉市シルバー人材センターのホームページが開きます。

ハローシニア佐倉

(公社)佐倉市シルバー人材センター

今回は佐倉市を飛び出し、四街道市シルバー人材センター(以下「四街道市SC」)を訪問。三浦会長、阿部事務局長から、四街道市SCの特徴的な事業を中心に、お話を伺いました。

人材センター訪問



阿部事務局長(左)・三浦会長(右)

(佐) 今日はこちらへお願いしています。

(四) 初めに、私たちの会員拡大の基本的な考え方についてお話しします。就業して収入を得て頂くことはもちろんですが、それよりも、健康の増進と生きがいの充実、そして地域社会の活性化に貢献するという、シルバー人材センターの本来の福祉目的に重点を置いて会員拡大に努めています。そのためリーフレットを作成し、全戸配布しました。

(佐) 四街道市SCでは、全戸配布事業をされているんですね。

(四) はい、市の市政たよりの他、社会福祉協議会や地域振興財団からの公的な文書を、市内の全戸に配達しています。選挙公報も対象です。当初、スーパリーなどの民間需要も想定しましたが、配布の負担が大きすぎるため取りやめました。対象戸数は

38,800〜38,900戸になり、市域を126の区域に分割し、120人ほどで一人当たり100〜1000部を、主に徒歩、自転車でも回り配っています。印刷所からセンターに納品される印刷物は大量であり、配布員への仕分け作業が大変です。当SCでこの事業が可能な理由としては、市の面積が広くなく、分断要素も少ないことがあげられると思います。

(佐) 全戸配布事業に併せて、市と「高齢者見守り活動に関する協定」を結んでいるとのことですね。

(四) 配達に行った際、ポストがいつぱいに詰まっていたり、生活の匂いがしないと感じたときには、市へ連絡し、市の担当者が安否確認をします。声をかけるのではなく、外から見ての判断です。

(佐) 広報活動についてお聞かせください。

(四) 広報ビラを駅の自由通路に設置したラックに置いて、入会説明会や仕事の案内のお知らせをしています。これは効果があるようです。会員向けには、「シルバー四街道」を年2回(冬号・夏号)、「事務局だより」を毎月発行しています。

また、創立30周年記念に発行した「銀翔」は、あえて簡易製本とすることで単価を下げ、大部数を印刷しました。入会説明会や市民への説明、視察時の配布資料などとしてパンフレットの使っています。

(佐) 他に独自の取り組みはありますか。

(四) チケットサービスというものがあります。500円×10枚セットのチケットをあらかじめお客様に買っていたとき、「ミミ出し、電球交換等の軽作業の料金をそのチケットで払っていただく方式で、支払手続きの簡素化を図っています。また、会員の中に理容師有資格者が2名おり、外出が不自由な方のための出張ヘアカットをチケット2枚で受けています。



活動風景

(佐) グリーンリサイクル事業はどのようなものですか。

(四) こみの減量化と新たな就業機会の創出を目的に、作業で発生する木や枝を機械でチップ化し、やはり作業から発生する草を発酵させ、これらを混ぜて土壌改良剤を作っています。農園同好会の畑で使う他、希望者には無料で配布しています。一例として、ブルーベリー農家が使われています。また現在、チップを圧縮成型したブロックの燃料化も検討中です。太い木は、機械で割ってマキを作り無人販売所で売っています。ちなみに、農園同好会の活動は活発で、24〜25名が参加し、千葉在来の蕎麦、芋、ブルーベリーなどを栽培し、日曜の朝市で販売したり、産業祭に出店したりしています。



	四街道市 SC	佐倉市 SC
会員数 (平成31年3月)	591名	1,105名
女性比率 (平成31年3月)	24.2%	29.2%
受注件数 (平成30年度)	4,186件	17,734件
契約金額 (平成30年度)	265百万円	553百万円
公共：民間比率	28：72	15：85
市人口 (平成31年4月1日)	94,228人	175,476人
市面積	34.52km ²	103.69km ²

(佐) 今日とは年度初めのご多忙な時間を割いて、快く取材に応じて下さり、まことにありがとうございます。

取材担当／広報委員

長田 成兒
葛西 正敏

筆耕班



職群紹介



活動の様子は
スマホでご覧下さい



【動画】

筆耕とは「筆耕硯田(けんでん)」の略語で、毛筆などで文字を書くのを生業とすること

「筆耕」の言葉は聞き慣れないかも知れませんが、毛筆で描かれた作品は、よく目に留まっているはずですよ。

当センターには、この筆耕に携わっている会員の方が2名おられます。今回は、筆耕班の班長 長澤 満さんと、川田 和子さんを取材しました。

手書きの良さ

一 言でいえば、手書きにはワープロ等で印刷したものと違い、温かさが感じられることです。お客様からのご要望は、賞状を始め、結婚招待状の宛名や席札、看板などの木札、トロフィーのペナント等、多岐に渡ります。作業は、ご自宅で静寂の中、集中しながら行っています。

お客様の要望を取り入れて できる作品

書

体や字体はお客様と充分に打ち合わせをしてから、作業に取りかかります。文字には表情があり、同じ文字でも書体によって受ける印象が変わります。一文字一文字に心を込めて書き上げ、お客様の笑顔を頂いた時には、代えがたい喜

びがあります。そして、作品には、華やかさはないかも知れませんが、全てに心が
あります。

美しい日本の心

真 心を込めて出来上がった作品には、お客様と筆耕班のこだわりがあります。今まで安易に見過ぎてきた文字

の中にも、その苦労とこだわりが隠されているのです。皆さん、生活の中で毛筆文字を見つけたら、是非その裏にある日本の心を探ってみては如何でしょうか。



「二度とない機会に、心を込めて筆耕します!」

筆耕のご用命は、事務局までお願いいたします。

取材担当/広報委員 葛西 正敏

令和2年度安全標語
『まさかよりもしもの気持ちで危険予知』
表彰式に伺いました

2020年度 安全標語 まさかよりもしもの気持ちで危険予知



写真2

28名の会員から77件の安全標語の応募があり、1月30日に開催された安全・適正就業委員会において、最優秀賞1点と2点の佳作が選出され、事務局便り3月号において紹介されました。



写真1

4月17日(金)センターの役員室で行われた「2020年度安全標語」の表彰式に伺い、最優秀賞の武井元久さん(白井・千代田地区2班・写真右)にインタビューしました。

写真1の中央は田中会長、左は佳作の橋本礼男さん(根郷・弥富地区2班)です。毎年、橋本さんは安全標語を考案され応募されているそうです。

表彰式の後に、ワークプラザにて、前年の作者である森岡さんとの安全標語の引き継ぎ(写真2・左は総務係の森岡さん)を行いました。

森岡さん一年間お疲れ様でした。武井さんよろしくお願ひします。

武井さんは、危険の多い植木職に就業し、地区班長として定期便を配布し、車を運転することが多く、常に安全を意識され、この標語を愛用されているとのことでした。

危険を回避し、安全意識を向上するため、「だれでも、いつでも、どこでも」自分で「安全標語」を唱え、様々な作業条件と環境の中、事故と災害のない明るい一年になればと願っています。

皆さん、無理と油断はケガのもとですよ! とのことでした。この頃は、起床時やちよつとした段差で転倒の危険を感じている取材者でした。ご安全に

取材担当/広報委員 岩淵 功

